**総合（食育）学習指導略案**

１．教科　単元　　　総合　「野菜のパワーを知ろう」

２．日　　　時　　　令和元年１２月３日（火）６・７限（１３：４０～１４：３５）

３．場　　　所　　　多目的室

４．生　　　徒　　　高等部　１年

５．指　導　者　　　Ｔ１：総合担当教員、Ｔ２：栄養教諭

６．ね　ら　い　　　野菜に含まれるビタミン類や食物繊維の体への効能について、理解を深めることができる。

（知識・技能）

　　　　　　　　　　次時のクラスでのオリジナルメニュー作りに向けて、野菜を使おうとする意欲を持つこと

ができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学びに向かう力）

７．展　　　開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価（観点方法等）  準備物 |
|  | 生徒の学習内容 | 指導の手立て（☆）留意点（●） | 方法 |
| 導入  5分 | １．はじめのあいさつ  ２．今日の給食に入っていた野  菜について知る。 | ●Ｔ１が号令かけをしたい生徒を募る。  ●Ｔ１がＴ２を紹介する。  ☆給食に何の野菜が入っていたか生徒が答えにくいときには、Ｔ２が野菜のイラストを提示し、答えやすいようにする。  ●Ｔ２が今日の給食だけに野菜が入っていたのかを問い、毎回の給食に入っていることをおさえる。  毎日の給食に使われている野菜にはどんなパワーがあるのだろうか。 | (準)パソコン  (準)大型モニター  (準)パワーポイント |
| 展開①  15分  休憩  10分  展開②  20分 | ２．野菜を２つの種類に分ける。  ・淡色野菜（色が薄い野菜）  ・緑黄色野菜（色が濃い野菜）  ３．病気（感染症など）を防ぐ  パワーについて知る。  ・淡色野菜（色が薄い野菜）  →主にビタミンCが多く含まれ、風邪のウイルスへの抵抗力を高めるのに役立つ。  ・緑黄色野菜（色が濃い野菜）  →主にカロテンが含まれ、のどや鼻の粘膜を強くするのに役立ち、ウイルスの侵入を防ぐのに役立つ。  ４．腸の中を掃除するパワーに  ついて知る。  ・食物繊維 | ☆Ｔ２が野菜を切る前の写真と、断面を撮った写真を用意し、見た目では分かりづらい野菜も2つに分類しやすいようにする。  ●Ｔ２は野菜の断面の色を予想させながら、楽しく楽しめるように工夫する。  ●野菜を色の濃い野菜、色の薄い野菜の2種類に分け、風邪を例にして野菜のもつパワーを分かりやすくＴ２が説明する。  ●Ｔ２が、ウイルスの絵や体の模型の図をパワーポイント上で示しながら、簡単な言葉でビタミンCやカロテンの効果を説明する。  ●Ｔ２は、ビタミンCはほとんどの動物が作れるが人の体では作れないにことに触れ、野菜から摂取する必要性があることに気付かせるようにする。  ●Ｔ２は、ビタミンCは抗ストレスのパワーがあることにも軽く触れるようにする。  ●Ｔ２が食べ物の体の中の通り道についてパワーポイント上で図を使い簡単に説明する。  ☆Ｔ２が消化管を示すエプロンシアターを使い、腸の長さを体感させるようにする。  ☆野菜から食物繊維を取り出す実験をし、食物繊維がもつ効能をイメージできやすいようにする。  ●Ｔ１が長机を準備し、各クラスの作業の場所を伝える。  ●めん棒で野菜をたたくときには軍手をはめて、滑りにくくし、野菜の下に雑巾を敷くなど、安全面に担任が注意してクラスごとに行う。 | (準)エプロンシアター  (準)長机  (準)軟らかく煮た野菜  （大根、牛蒡、キャベツなどをジッパー付きの袋に入れておく）  (準)雑巾、めん棒、軍手 |
| まとめ  5分 | ５．野菜のパワーについて振り  返り、次時の活動への見通しを  持つ。  ・病気を防ぐパワー  ・腸の中を掃除するパワー  ６．終わりのあいさつ | ●Ｔ２が本時で学んだことをいかし、野菜をたっぷり使ったメニューを考えるように伝える。  ☆Ｔ２が１日摂取すべき野菜の量や、１回の給食で使用している量について知らせることで、たくさん野菜を使ったメニュー作りへの見通しを持たせる。  ●Ｔ１が本時以降の食育のスケジュールを生徒に伝える。  ●Ｔ１が号令をかける生徒を指名する。 | (準)振り返りカード  (評)振り返りカードに記入している内容から、野菜のパワーについて理解しているか見とる。（知識・技能）  (評) 振り返りカードに記入している内容から、野菜のパワーに関心が持てたか、次時の活動への意欲等を見とる。（学びに向かう力） |